

V 結果

1 キャリア教育全体計画の作成【資料1-1～1-3】

「いわてキャリア教育の手引き」に基づいて、各学部で検討を行い、様式1～3【資料1-1～1-3】によりキャリア教育全体計画を作成した。

様式1 本校のキャリア教育の全体像

様式2 各学部段階におけるキャリア教育目標

(岩手キャリア教育の手引きにある総合生活力と人生設計力の6項目に沿い、各学部の実態に合わせ設定)

様式3 教科・領域におけるキャリア教育の指導目標

(学習指導要領とキャリア教育推進ガイドブックー岩手県総合教育センターーを参考に)

全体計画は年度ごとに見直し確認をしていくものとした。このことにより発達段階に応じたキャリア教育の到達地点を確認できた。

2 キャリア教育推進についての研修

24年度は4月に「いわてが目指すキャリア教育」の基本的な考え方について学部内で確認した。8月には、県教育委員会学校教育室特別支援担当主任指導主事 清水利幸氏により「岩手県におけるキャリア教育の推進について」講演会を行い、岩手県の推進するキャリア教育について研修を深めた。

25年度は授業研究会を行うにあたり、研究部で岩手県立総合教育センター最上一郎氏により、ワークショップ型研究会の進め方について研修会を行った。

全校での研修会は、「自己有用感の向上」について岩手県立総合教育センター教育支援相談担当 佐々木 一義氏による講演会を行った。自己有用感とは、自己有用感を支える要素、学校の役割、自己有用感を高める関わり、自己有用感につながる言葉などについて研修を深めた。

3 キャリア教育の観点を踏まえた年間指導計画の作成

24年度はそれぞれの学部においてキャリア教育に取り組まれているか、各領域教科等で作成した年間指導計画をもとにキャリア教育の6項目のチェックを行った【資料2-1】。また学部ごとに各領域教科の総単元数に占めるチェックした単元数の割合を求め、傾向を分析した。

その結果、全体として言えることは、以下の3点であった。

- ・6項目に対して0ではなく、取り組まれている。
- ・6項目において重点的に取り組まれている教科がある。
- ・総合生活力については全学部で多く取り組まれているが、人生設計力の割合は、小学部から高等部になるにつれて多くなり、「いわてキャリア教育の手引き」における「発達段階に応じたキャリア教育」の図に合致している。

25年度は24年度にチェックした様式で、各教科領域の年間指導計画にキャリア教育に関

する 6 項目を加えた様式で作成した。作成に当たっては、学部ごとの各教科等の担当者間でチェックする項目や内容に差が出ないように、共通理解を図りながら記入するよう留意した。

4 授業実践と自己有用感の形成と向上のための支援について

「ありがとう」と「自己有用感の形成、自己有用感の向上のための支援について」を協議の柱にして、学部ごとにワークショップ型授業研究会を行った。

授業研究会の指導案は書きやすいよう略案とした【資料 3-1、3-2】。ワークショップ型の授業研究会は模造紙に付箋を貼っていく形で行ったが、その後 A4 版にまとめ【資料 4-1、4-2】、全校で共有するために学部ごとに回覧することとした。

学部ごとの結果は【V-41~46】の通りである。

自己有用感の形成と向上のための支援のまとめ

授業研究会は全部の授業で設定することができなかつたため、学部ごとに学校生活すべてで行うことができる支援を網羅することは難しかったが、まとめると以下のようなものもあり煩雑になったため、幼児児童生徒に期待したい内容と支援の例であげる。それぞれの支援は発達段階に応じて具体化し、また実態に合わせて行っていく必要がある。

① 健康管理、自己理解

- ・環境整備（健康観察、湿度・温度などの管理）
- ・心の安定、緊張緩和などの活動設定（日光浴、マッサージ、語らいなど）
- ・規則正しい生活リズムをつくる（登校など）
- ・自分について知る学習の設定（活動の振り返り、成果と課題の整理、将来の目標設定等）等

② 他者意識、集団への愛着形成

- ・グルーピングの工夫
(一対一から集団へ 相手を意識できる距離・場の設定 目的に応じたグルーピング、交流、地域での活動の設定等)
- ・ルール作り
(順番、役割分担、責任ある活動設定、ソーシャルスキルトレーニング等)
- ・集団の楽しさを味わう経験の設定
(楽しい雰囲気をつくる、楽しいことを表情で伝える、良い関係を作る補助、できたことを共有する場面設定等)
- ・認め合う場の設定
(子どもの発想や気づきを取り上げ良いところを賞賛、得意を生かす役割分担等)

③ コミュニケーション

- ・ 伝わる経験の設定
(教師を介してのコミュニケーション、気持ちをくみ取る、気持ちの表現方法の学習、視覚支援等)
 - ・ 必然性のあるコミュニケーション、かかわりの設定
(受け渡し、順番、発表等)
- ④ 意欲、達成感、自信
- ・ できる、わかる工夫
(五感に訴える活動、支援機器の活用、繰り返しの活動、既習事項の活用、教材教具の工夫、個にあった課題・スモールステップ、視覚支援、場の構造化、集中できる環境設定)
 - ・ 学習内容、単元の工夫
(楽しい雰囲気、生活につながる内容、体験的内容、発見のある内容、結果がわかりやすい内容)
 - ・ 個々が考える時間、個々の活動量の確保
- ⑤ 主体性
- ・ 自分で決定し、実行する機会の設定
(わかりやすい提示、二者択一から多数からの選択、責任ある役割分担、自分を知る学習の設定等)
 - ・ 選択する幅を広げる工夫 (幅広い学習内容の計画)
 - ・ 考える時間、意思表示の時間の確保
 - ・ 幼児児童生徒が目標や目的を意識できる内容や場面設定
(一緒に計画を立てる、目標をわかりやすく提示する、生活につながる内容の計画、本人が必要を感じる課題設定、将来について考える学習の設定、実習の設定、等)
- ⑥ 自己肯定感、認められる経験
- ・ 相手のある学習の設定
(復興支援、ボランティア活動、プレゼントなど感謝される内容、作業・実習など働く機会の設定、等)
 - ・ 認められる場の設定
(得意分野を生かす役割分担、認め合う場面設定、地域での活動の工夫等)
 - ・ 生徒たちが行う活動を確保
(意図的に頼む、準備片付け、教師が動きすぎない)
 - ・ プラスの評価をする
(すぐほめる、みんなで賞賛する、教師が良いところを見逃さない、見えない部分も評価する、家族や他者からの評価をもらう、認め合う場面設定、発表、マイナス評価への対応等)